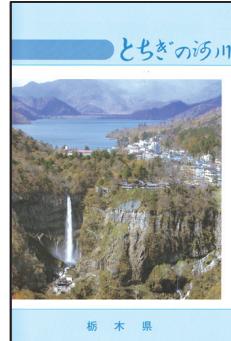


# 技術

この分類には、土木、建築、機械、鉱山、食品に関する資料が含まれます。

ここでは、栃木県の河川、歴史的建築物、足尾銅山、郷土料理に関する資料をご紹介します。

## 22 コンパクトで分かりやすく栃木県の河川事業を伝える資料



### 『とちぎの河川』

栃木県土木部河川課/編

栃木県土木部河川課

1983(昭和 58 年)

52p 26cm

栃木県における河川の現状と概要をまとめた資料である。河川の改修や管理、水資源の利用の現状や需要予測と今後の計画などを、栃木県河川図をはじめとする地図、図表・写真を使い説明している。

また、台風による河川の氾濫などの災害被害状況やその復旧事業について、詳細事項を図表化するとともに、災害時と復旧工事後の写真が並列掲載され、理解しやすい。

当館では、1992年(平成4年)、2002年(平成14年)、2004年(平成16年)、2006年(平成18年)発行の資料を所蔵している。

最新版は、栃木県のホームページで見ることができる。

## レファレンス

※館内利用のみ。【請求記号 : T517/91】

## 23 栃木県の城郭研究の基本書



### 『栃木の城』

下野新聞社/編著

下野新聞社

1975(昭和 50 年)

365 p 19cm

※絶版もしくは重版未定

1974年(昭和49年)、下野新聞紙上に150回にわたって連載された「栃木の城跡」をまとめた資料である。

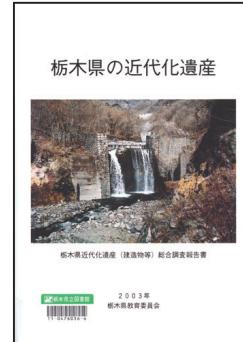
栃木県内で存在が確認されているという約230の城跡から122城を取り上げ、地区別に配列している。築城から落城に至る城の歴史や城主の盛衰、現在の城跡の様子など、城にまつわる物語がコンパクトにまとめられている。栃木県には山城や館形式の小規模な城が多く、そのほとんどは江戸幕府成立までに滅んでいることから、中世史や山城の調査の資料としても活用できる。

1995年(平成7年)には増補改訂版が刊行。初版発行後の発見・発掘で明らかになった部分を改訂し、新規に11城の記述を追加した。城郭めぐりのガイドブックとしても役立つ。

## 貸 出

【請求記号 : T521/4】

## 24 栃木県の歴史や近代化遺産に対する理解を深めるための基礎資料



### 『栃木県の近代化遺産』

栃木県近代化遺産(建造物等)

総合調査報告書』

栃木県教育委員会事務局文化課/編

栃木県教育委員会

2003(平成 15 年)

318 p 31cm

栃木県教育委員会が平成13、14年度に実施した「栃木県近代化遺産(建造物等)総合調査」の調査報告書。「総論編」、「概要編」、「各論編」、「資料編」の4部構成となっている。

「総論編」は、栃木県の歴史や地域形成、産業、交通・通信、土木、軍事、教育・文化の観点からの栃木県の近代化の概略が、「概要編」は、近代化を特色づける土木、施設、建物などの9項目の概略が収録されている。「各論編」では、代表する168件の事例について遺産ごとの詳細な説明を写真付きで掲載している。「資料編」は、本書で取り上げた全ての遺産一覧表や各論の中で詳細に記述されなかった状態の良い遺産の写真などが掲載されている。

同時に「各論編」の一部(公開している遺産)を地図とともに掲載した『概要版』(109p)が刊行された。

## 貸 出

【請求記号 : T521/48】

## 25 フィールドワークによる栃木県内 中世城館 410か所の調査報告書



### 『栃木県の中世城館跡』

栃木県教育委員会事務局文化課／編

栃木県教育委員会

1982(昭和 57 年)

267 p 31cm

昭和 54 年度から昭和 56 年度の 3 ヶ年で実施した栃木県中世城館跡分布調査の報告書である。

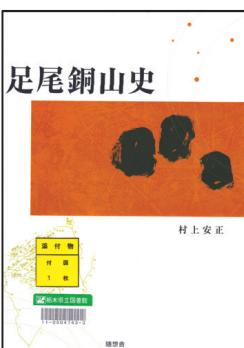
近年の開発事業の影響で破壊の危機にある遺跡の状況を危惧し、県内各地に所在する中世の城館跡の実態の把握と今後の遺跡保存のための基礎資料を収集する目的で、調査を実施した。

調査対象は、平安時代中頃から戦国時代に築かれたもの、もしくは主として当該時期に使用された中世城館のほか、屋敷、砦、陣、烽火台、物見台などを中心とする関連遺跡としており、この調査で 410 か所を確認したことである。地域ごとの概況のほか、各城館の規模や残存状況、城館に関する文献、記録、絵図、伝承、付近一帯の歴史的状況についてもまとめられている。

### 貸 出

【請求記号 : T521/62】

## 27 著者の人生と共にあった足尾銅山の歴史 を大ボリュームで描く大作



### 『足尾銅山史』

村上安正／著

随想舎

2006(平成 18 年)

654p 27cm

著者は東京で生まれ空襲で被災した後、足尾に移り古河鉱業に入社した。定年退職まで同社で勤める傍ら、金属鉱山研究会を創設するなど、鉱山研究家として広く活躍している人物である。

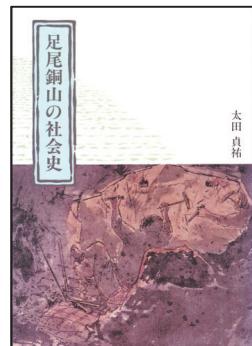
本書は、足尾鉱毒問題とともに、発掘技術の発達をはじめとする工学、そこで働く人々の生活を記録した社会学といった様々な分野が交差しながら、鉱山が発見されてから閉山に至るまでの歴史が描かれている。なお、付図として 1913 年(大正 2 年)の「足尾銅山図」がある。

本書発行から 4 ヶ月後、『足尾銅山史 別冊(文献・資料・索引)』が刊行された。江戸から明治時代にかけての文献、「足尾郷土史」などの資料、本書の索引を収録している。

### 貸 出

【請求記号 : T560/309】

## 26 足尾に生まれ、育ち、生活する 著者ならではの足尾と足尾銅山の歴史



### 『足尾銅山の社会史』

太田貞祐／著

ユーコン企画

1992(平成 4 年)

326 p 22cm

※絶版もしくは重版未定

著者が「足尾文化財シリーズ」として執筆していた作品をまとめたものである。

「足尾銅山に関わる人と文化財」、「足尾銅山で働いた人々の生活」、「足尾の学校について」という 3 部構成となっている。

昔からの住民や関係者の記憶に加え、協力者からの資料を紐解きながら執筆された。また、著者は足尾町出身で、栃木県立足尾高等学校教諭に始まり、足尾町教育長まで務めた人物であるため、学校の歴史や学生の様子を詳細にまとめることができた。

1993 年(平成 5 年)に続編の『続足尾銅山の社会史』が刊行された。

### レファレンス

【請求記号 : T560/268】

## 28 日本の近代化に貢献した足尾銅山の 産業遺跡を紹介



### 『足尾銅山の産業遺跡』

足尾町教育委員会、足尾町文化財

調査委員会

2006(平成 18 年)

351p 21cm

2002 年(平成 14 年)1 月号から 2005 年(平成 17 年)12 月号までの 4 年間にわたり「広報あしお」にシリーズで掲載された「足尾の産業遺跡」を加筆し、まとめたものである。

この連載は、足尾町文化財調査委員会の前野仁氏が執筆し、同委員会が監修した。足尾銅山の歴史とともに足尾銅山が発展していく様子を克明に記している。

幾度となく行われた足尾銅山産業遺跡の実地調査や資料の収集・検証に基づき、足尾銅山内の設備・施設についての記録や、人々の様子などが書かれており、当時の足尾の様子を知ることができる。

巻末には、「足尾銅山近代化主要事項年表」を収録している。

### レファレンス

【請求記号 : T560/327】

## 29 季節別「栃木の味」レシピ 120 選



### 『栃木ふるさとの味四季の味 作って食べよう郷土の味』

下野新聞社

1999(平成 11 年)

175p 28cm

「郷土・栃木県で古くから親しまれてきた料理」「栃木県で生産されている食材を活用した料理」を基準に選定された 120 の料理レシピを、季節ごとに収録した資料である。各章の終わりと特に興味深い料理に関しては、コラムを掲載している。

収録レシピは主食、おかず、甘味など様々である。(例: 耳うどん、かんぴょうの炒め煮、いちご羊羹、ゆずジャム)

オールカラーで各料理の写真を大きく掲載しており、一品を 1 ページまたは見開き 2 ページでまとめているため、ページをめくらずに調理ができる、実用的な資料である。

巻末には「50 音順別」「主食材別」「調理時間別」「調理方法別」の索引がある。

貸 出

【請求記号 : T596/36】

## 産業

この分類には、産業、交通、通信などが含まれます。

ここでは、お勧めランチ店の紹介や街道、鉄道交通の発達の様子をまとめた資料をご紹介します。

## 30 栃木の選りすぐりのランチを紹介したガイドブック



### 『Lunch の女王 栃木のランチ 130』

月刊ツイン・ファム編集部／編

下野新聞社

2004(平成 16 年)

150p 19cm

※絶版もしくは重版未定

株式会社ツインズが 2002 年(平成 14 年)～2008 年(平成 20 年)まで発行していた、栃木の女性のための情報誌「月刊 twin FEMME(ツイン・ファム)」の編集部が取材した、洋食和食中華からカフェまで、栃木の選りすぐりのランチを紹介した資料である。

メイン料理の写真・説明、店舗の内観・外観の写真、ランチ・ディナーの価格帯、土日のランチの有無などの情報が掲載されている。県央・県北・県南のエリアに分けて掲載しており、巻末にはジャンル別・50 音順のインデックスが付いている。2004 年 3 月現在の情報である。

続編として 2006 年(平成 18 年)に『Lunch の女王 2』(2006 年 6 月現在の情報)が出版された。

貸 出

【請求記号 : T673/35】

31

## 宇都宮で少し贅沢なランチのための ガイドブック



### 『宇都宮上等なランチ』

ジェイアクト／著

メイツ出版

2007(平成 19 年)

128p 21cm

※絶版もしくは重版未定

宇都宮の市街地を中心としたお店のとておきのランチを紹介する資料である。

基本情報として、ランチタイムとディナータイムとその料金、座席数、個室と予約の有無、休業日、駐車場、店の案内地図などに加え、おすすめメニューや店内・外などの多数の写真が掲載されている。また、スタッフ（シェフやオーナーなど）の写真付きメッセージも参考にできる。2006 年 11 月現在の情報である。

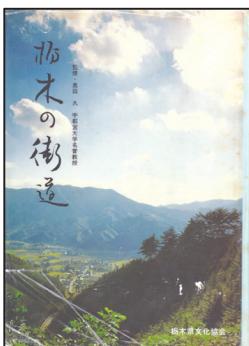
続編として 2009 年（平成 21 年）に『とっても上等なランチ』（2009 年 5 月現在の情報）、2012 年（平成 24 年）に『とておきの上等なランチ』（2012 年 8 月現在の情報）、2015 年（平成 27 年）に『至福の上等なランチ』（2014 年 11 月現在の情報）が出版された。

**貸 出**

【請求記号 : T673/39】

33

## 近世以前を中心とした栃木県内の 14 の道を辿る資料



### 『栃木の街道』

奥田久／監修

栃木県文化協会（栃の葉書房）

1978(昭和 53 年)

505p 22cm

※絶版もしくは重版未定

近世以前を中心に、変貌する街道を視点に、栃木県の歴史と文化を探る資料として企画し発行され、街道資料の先駆けとなった。

「東山道」から「足尾を中心とした道」まで県内 14 の街道を執筆者とともに歩きながら、その地域の歴史や文化を学んでいる感覚となる。また、各所に地図や執筆当時の街道の写真などが散りばめられているため、より街道の様子をイメージしやすくなっている。

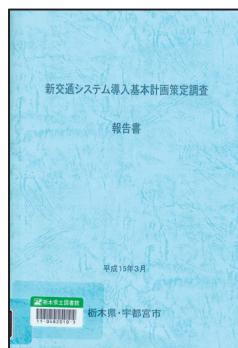
執筆者 6 名は郷土の研究家であり、手持ちの資料を相互に提供し合うとともに、担当する街道の実地調査を行った。また、調査にあたって各地の研究者の協力も得た。このため、内容は充実し、巻末の参考文献の量も膨大である。

**貸 出**

【請求記号 : T682/15】

32

## 新都市交通システム導入に関する 論点整理



### 『新交通システム導入 基本計画策定調査報告書』

栃木県・宇都宮市

2003(平成 15 年)

83, 44, 5p 30cm

宇都宮市の新たな交通システムの必要性について、宇都宮地域の現状と問題点及びまちづくりの課題を整理し、LRT システムの導入を検討する調査報告書。需要予測、事業採算性、整備効果、道路交通への影響など、実現化に向けた課題と対応の方向についてまとめている。

調査対象区域は、宇都宮市とその周辺地域とし、新たな交通システムの導入によるまちづくりという視点から、影響が及ぶエリアと位置付けている。計画目標年次は 2020 年（平成 32 年）である。

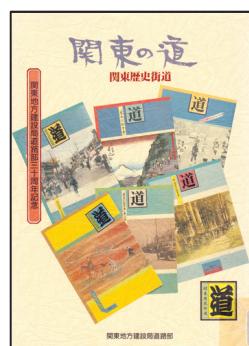
巻末には、新交通システム導入基本計画策定調査委員会による第 1 回（平成 13 年 11 月）から第 5 回（平成 15 年 3 月）までの検討内容がまとめられている。当時の経過を知る際や、交通面からの地域づくりについて情報を求める際に手に取られることの多い報告書である。

**貸 出**

【請求記号 : T680/10】

34

## 人と道は歴史や文学の中で どう関わってきたか



### 『関東の道 関東歴史街道』

建設省関東地方建設局道路部／編

関東建設弘済会

1988(昭和 63 年)

160p 26cm

関東甲信 1 都 8 県（東京、茨城、栃木、群馬、長野、山梨、埼玉、千葉、神奈川）2 市（川崎、横浜）が、「関東地方道路広報連絡会議」を設置して作成した機関誌「KANTO の道」の 1~6 号をまとめた資料である。

関東甲信地域の道の歴史性にスポットをあてた「歴史の証言者」と、文学の中に取り上げられた道に注目した「ドラマの中の道」の 2 つのテーマで紹介している。栃木県は、前者が「日光街道・徳川聖地への道」、「観光道路の先駆け・日光いろは坂」など 4 編、後者が「松尾芭蕉『奥の細道』と日光街道」、「立松和平『火の車』と足尾の道」の 2 編である。「栃木県の歴史地図」、関東地方「道の歴史」年表なども掲載されている。全編カラーで地図、挿絵、写真も豊富である。

本書に追加編集された『「関東の道」発刊 20 周年記念 1985~2004』が 2005 年（平成 17 年）に刊行された。

**レファレンス**

【請求記号 : T682/33/88】

## 35 日光街道の過去から現在までを写真や図表とともに辿る



### 『栃木の日光街道 荘厳なる聖地への道』

日光街道ルネッサンス 2 1

推進委員会

2003(平成 15 年)

375, 5p 27cm

栃木県内の日光街道について、古代から現代まで果たしてきた役割や歴史的な価値を見直すとともに、経済的・文化的な意義やその変遷などをまとめた資料である。

第一部では、古代・中世における東山道と奥大道に関わる歴史上の出来事について解説されている。第二部では、江戸時代に整備された五街道及び日光街道の解説や街道の各宿場の様子、栃木県における戊辰戦争の状況について書かれている。第三部では、明治時代から現代にかけて、徒歩から自動車交通のための道路へと変わる日光街道の変化を知ることができる。

街道風景や史料の写真、図表がカラーで豊富に掲載されている。また、漢字のルビや用語の解説も充実している。

貸 出

【請求記号 : T682/66】

## 37 栃木県ゆかりの街道に残された歴史物語 を辿る



### 『下野街道物語 大いなる栃木の街道をゆく』

島遼伍／作・監、下野新聞社／編

下野新聞社

1999(平成 11 年)

175p 21cm

※絶版もしくは重版未定

栃木県内を通る 7 つの街道といいくつかの脇街道について、街道沿いの各地に残る武将や城主、藩士たちの物語をまとめた資料。著者は、栃木県の史実を踏まえた歴史小説を多く執筆し、栃木の地域史に光を当てた人物である。

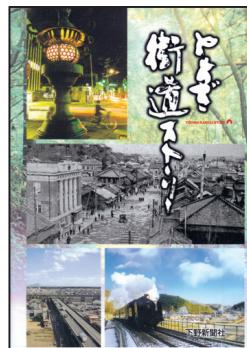
章ごとに、東山道・日光街道・奥州街道・例幣使街道・会津西街道・塩原街道・水戸街道及びいくつかの脇街道を取り上げ、街道の解説とルートの略図を掲載。続いて、街道沿いの街や地域に残る、中世から近世期を中心とした歴史的エピソードを紹介している。「街道」をキーワードにした歴史物語として楽しめる。

また、松尾芭蕉が『おくのほそ道』の中で辿った栃木県内のルートについての解説も収録している。

貸 出

【請求記号 : T685/30】

## 36 今も残る街道の歴史を当時の写真や 絵図を交えて紹介



### 『とちぎ街道ストーリー』

大嶽浩良／監修

下野新聞社

2007(平成 19 年)

163 p 26cm

※絶版もしくは重版未定

2003 年(平成 15 年)から 3 年間、下野新聞で連載された「街道ストーリー」を再編集し、書籍化したものである。

栃木県を通っている道路の多くは、昔から人々に活用されていたものが多い。本書では、時代とともに移り変わる政治経済の状況に応じて変化する、道路の機能や役割を一つ一つ描いている。

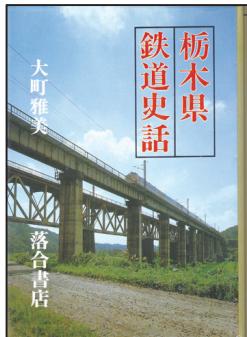
道路は、時代によって変化する人々の生活を受けて生まれることから、歴史ある道路に加え、宇都宮環状道路のような、新しい道路についても言及している。

古いものだけでなく、変化していく新しい社会の様子を写真も交えながら紹介している。

レファレンス

【請求記号 : T682/80】

## 38 明治から昭和期における県内各地の 鉄道事情を網羅した資料



### 『栃木県鉄道史話』

大町雅美／著

落合書店

1981(昭和 56 年)

454p 22cm

日本鉄道(東北本線)建設の歴史をはじめ、石材を運ぶために使われた鉄道、現在は廃線となった鉄道、計画があつても実現しなかった鉄道など、県内各地の鉄道事情を網羅した資料である。

地域別に章立てし、各鉄道を当時の史料を用いて紹介している。文章だけではなく、地図や写真、当時の新聞記事など視覚的な情報が豊富であり、内容が理解しやすい。

「明治時代の東京一日光間の路線名が知りたい。」「東武鉄道矢板線がどのあたりを通りていたのか知りたい。」「野岩鉄道の歴史に関する資料が知りたい。」「明治から現在までの宇都宮駅舎の変遷について調べたい。」など、県内の鉄道史に関するレファレンスで使用される頻度が高い資料である。

レファレンス

【請求記号 : T686/23】